

2232

入 強

孝
文
苑
新
語

五

小夜尾卷之八 


才十一 夜盜拵之事

才十二 鎧物具

才十三 馬拵之事

才十四 三帝諸軍より御對面之事

才十八 軍勢賤之事

小夜尾卷之八 

才十一 夜盜拵

御筋と受けとらるる。究竟のゆと人等。いとく
と引連のそと。隆光寺へも。あつるゆと。人
へも。れくぞ。はりの國の。覺淨禪の。どり。ら
思。お泉國の下。た。た。山。城國。三條。の。右。唐。門。
壬。生。小。後。遠。の。國。は。後。平。六。越。前。國。の。も。津。乃。
松。乃。之。五。乃。九。節。伊。賀。國。の。い。さ。ご。う。ら。林。以。氣。
尾。張。玉。よ。ら。ら。全。次。秋。村。の。だ。せ。ん。甲。斐。國。の。
じ。い。ざ。ら。九。節。節。古。鳥。ぬ。く。え。ん。や。し。の。積。利。
依。濃。國。の。禪。通。し。く。ら。ご。の。丸。後。ら。ぬ。れ。禪。久。老。



えんごうの心しかつてはぬれ大杖うごぬれ
また（？）天貴こぶらとされうそ大かゆてこ
りのせよ音鳴るとまげ先とひそめて雷電
の形小悲びいへ。然故小六小後とりぐり冤
れ盗人四方へつけく雷電のわらわれ跡道の
きんととあられえわんろぐとく。東小よらつて
一ひら松乃しげよ鬼はまこ出物後とふ家あり。
睡眠心魂とまぢうんといふ淋と受祖しは
くけまは今まじ淋よわらまらりの縁うとら
らそふやうに。ゆのつら鬼ぞうへ移ありとら

これ等。ぬらうびさく。花とまじせとあつて
まご正南よわらつて。二所をらわらうとまじ
竹のちふふこもわて。鬼ぞの志をわ。これと
わあつて。まじまじいつあつて。心魂を極の淋と
まじもりて。おほもあつて。福をせらわ。ニケ処
まじまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。
約よ一万余人の大か。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。
のち。二百二十六と。ひとと。この。おほまじ。
ら。雷ぞん。の。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。
と。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。
と。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。おほまじ。



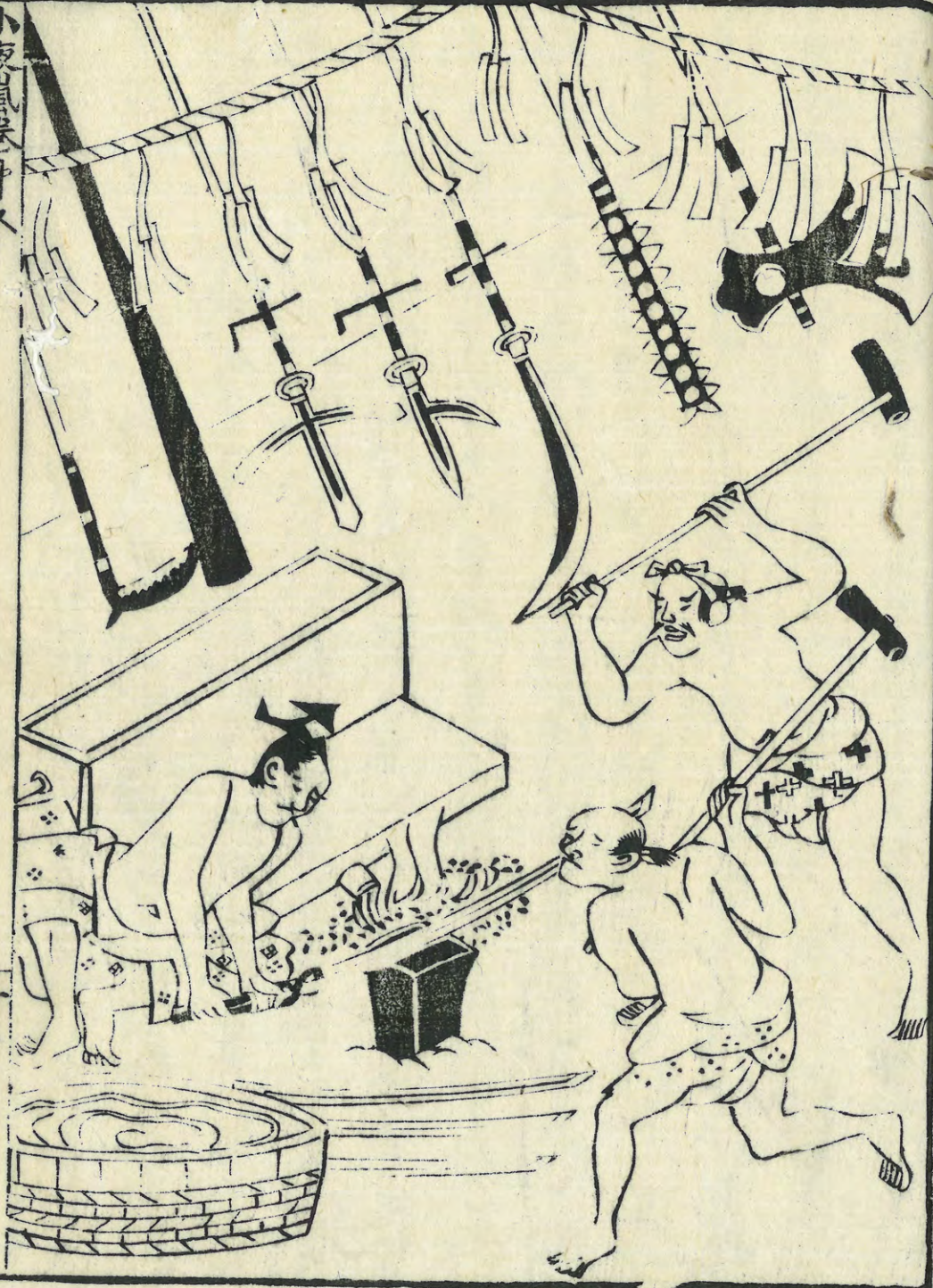
月このうらよとれうつり方こよいとらびていそ人
まが方へもれうこふがふふやうなんとめらう
ひつううらんとそんぞびもたかこふそんぞん
あつばとそんぞあつてもんま城へうらけ火せめあ
せめよ責^{あつ}念^{あつ}念^{あつ}鬼^{あつ}の^{あつ}びあつていとといよ柵^{あつ}とこ
づのけづんねびいこわよきりあつて氣^{あつ}ハそん
じとづこめとてしうれもふ松の童^{あつ}盤^{あつ}後^{あつ}け
かへばかすこころうらひさふとちれた勇士^{あつ}ハ
とまのきししてふさけこころのますすこ
運^{あつ}速^{あつ}くもくわびもそんぞらなまわりに敵と
こまこめよあつてうらうらうらうらひやと鬼^{あつ}

けのこえ邪^{あつ}見^{あつ}かろふ今とまごともかりあつて
かか祓^{あつ}通^{あつ}方便^{あつ}とめらうたなまもあつて貴^{あつ}途^{あつ}
乃やうよとひく乃事^{あつ}ぞりあひ酒^{あつ}天^{あつ}童子^{あつ}グ時
乃もあつて羅^{あつ}生^{あつ}門^{あつ}あつて鬼^{あつ}祓^{あつ}とあつてそのかつ
去^{あつ}賢^{あつ}あんとあつてやうもあつてさかろろがふた
よまかたれあつて名とあつてよのことやあつて
のこもこれうらうらあつてあつてあつてあつて
難^{あつ}共^{あつ}一人あつてしんぞぬやうは相^{あつ}後^{あつ}鬼^{あつ}を
ぶれあつてあつて又^{あつ}祓^{あつ}分^{あつ}あつてあつてあつて
ときぞうらうこのぶいを空^{あつ}中^{あつ}よくらあつてあつて
もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

那のこし肝要をい孫ぐくいの難兵よ。わくを
かひまきみちをくくもささこののなりこれかど忍
らさといくのめは何事とせふんか。教万人あ
らあまこ。一日二日うつらふいでらぬ。つら
道やしやうもさう。法細えらんこれくもさ
ふと成るわ。屋とかやう引とけづり矢とら
カうこれとさぶ。さやとし。港乃あけづり長刀
こんぶやとわり。柄とま。た。ことわひ。わらとぬ
くらなうわ。上。よ。れ。河とか。い。あ。と。は
く。和と日よつ。つ。く。名。で。福。よ。和。日。三。日。え。ま
ら。小。ち。刀。く。ま。檢。な。ま。あ。ら。や。の。ま。ど。ひ。程。め

か。後。乃。が。り。ひ。乃。ま。お。い。で。さ。い。あ。か。い。は。こ。よ
神。夏。あ。ら。が。り。あ。せ。の。ぐ。そ。く。の。中。よ。ま。や。こ
日。系。乃。坊。つ。よ。赤。井。刑。ア。七。更。と。つ。よ。の。あり。その
子。よ。龜。菊。丸。と。十。二。八。か。か。の。ま。あ。ぐ。具
是。乃。子。傳。く。て。わ。ら。り。ける。が。父。よ。ま。ひ。ける。と
か。是。と。さ。う。向。こ。た。つ。あ。い。う。か。か。い。ま。れ。ぞ。と。は
わ。ら。あ。わ。さ。さ。入。て。つ。ひ。多。ら。び。し。神。文。皇。后。是。を
還。治。乃。ま。あ。ま。ん。ら。さ。く。あ。む。む。せ。う。ふ。こ。ん。津。胎
心。小。子。や。ぐ。せ。あ。あ。れ。と。い。ま。ま。す。よ。あ。が。く。め
さ。れ。あ。白。布。あ。く。以。服。と。ま。う。せ。う。ふ。こ。ん。時。あ。ん。ら
と。と。還。治。乃。ま。あ。ま。ん。ら。さ。く。あ。む。む。せ。う。ふ。こ。ん。天

皇とすんてしはける。神文皇后十三代世のじに
 十年。の人のぬろくじまれよせよ。又蘇我天皇
 と。ちうわいのひのみふのり。ちうじまれよせよ。八
 懐のうはくあてすなり。八懐文といふサリセ
 事ハ長寛元年己卯年と皇又十六代清和天皇
 乃御宇なり。う紫の守護神とわかれよみえれ
 ば。神文皇后のころとす。まうせし。其の退治あり
 け。こころ海ら。い。う。尸。が。お。も。ぬ。新。と。あ。つ。子
 の。う。あ。と。せ。ぞ。れ。ぐ。く。や。う。か。の。の。く。と。親
 よ。ら。い。その。子。ハ。果。張。し。汝。ハ。い。わ。う。の。こと。と。父
 子。又。問。ける。ハ。う。ら。い。と。も。や。い。い。く。れ。る。あ。ん。よ。ら



まやとありひきまに様とふまふいとふあう
ざりけるがあらぬくらひ。あさといひの〜狩のぢやら
むわととまふくしてぶらう〜かりひきしとて
らぬと、いふれどぞれとていもきも事かたしよ
らひといふらひはよらうてちことといふら子あてて
すわいあときりゆくとゆきまれらんゆゆよりゆれ
あきいさむのあき勢えんとゆひけきたきたえ来あうぬ
まかれまひふだごとくこころかりんとていふれどせん
こなくしてあまよらういふといふやうもとゆひけらね
よ子やとて合あま〜とていふ父あらひのいふれとて
ざり中くともまぐらゐりのとてくるやくと思ひたれ

たせひもあくまごの〜らてぐれままて親まの
あていあく〜ら〜か〜ひ他今よむいふやみ
まも〜や〜らんらんにらるゆ〜とかりひけ
ぶれ〜くあやよむいひゆひけるまやとあ〜寺
の坊がきり〜ゆ〜れ〜傷はれとやんとあか
らうらよ。あま〜んといふまむわとせよ。あま〜ん
とてあま〜ゆとせよ。是をた〜らゆ事〜とてい
ひつてと〜りた。父は願はらるが〜あ〜こと〜やく
過あらうらうとてあ。それだ〜りのうあ〜は〜よ
まの安波へ〜うら。ちる坊は〜は程のい〜れとて〜
てこと〜あ〜わをり。ゆるれ〜らん。あまあふらうの

しがあつたてしと志のあつたが。かたがうとていふと
 し。能くあるけはあつた。ぬらなりしあつた。かじら
 ず。その。田史が。いざした。の。い。あ。わ。子。と。ち。ん。や。り
 て。日。習。と。せ。さ。分。な。り。あ。い。れ。清。と。り。え
 り。り。り。然。父。人。と。い。の。い。え。い。ま。ご。い。い。ら。う
 じ。茶。と。云。字。か。た。い。ま。れ。か。う。か。ぞ。う。か。わ。り。そ
 ち。わ。け。り。も。子。ま。て。そ。の。も。ち。の。う。ら。は。茶。と。い。ふ
 字。い。あ。く。い。と。り。親。字。と。是。な。ど。お。る。に。く。わ。り
 の。な。ら。ふ。茶。と。い。ふ。字。の。あ。あ。う。と。う。ま。り。あ
 かる。し。と。と。い。ふ。子。ま。て。文。字。か。と。か。ら。わ。り。あ
 ず。か。れ。を。い。ひ。ら。う。ら。は。何。と。も。な。れ。ま。り。し。い。

ま。の。その。う。ら。は。ら。や。し。と。云。字。の。是。か。く。い。ひ。し。い
 け。し。の。親。い。と。ん。と。か。く。て。あ。と。い。の。内。は。茶。と
 い。ふ。字。の。う。ら。は。何。と。い。わ。あ。ん。と。い。ひ。け。り。や。か。わ。り。ま
 て。い。ば。く。あ。く。ぞ。ら。あ。と。云。字。の。ま。あ。く。こ。の。の。か。わ
 と。人。の。と。と。ま。て。い。の。う。ら。と。人。の。う。ら。の。人。か
 ち。が。し。と。分。限。か。い。親。子。と。い。う。と。ま。ご。と。う。ま。り。け
 り。の。の。能。く。せ。神。通。よ。け。ま。り。の。よ。ま。せ。を。い
 へ。か。い。ま。い。親。一。文。字。あ。く。び。の。も。の。か。れ。い。か。う。と
 し。の。い。の。い。く。わ。う。う。げ。ひ。と。あ。べ。ぬ。せ。ぬ。あ。し。と
 と。み。ま。て。く。る。し。か。り。ひ。わ。り。を。れ。あ。や。機。能。能
 も。の。の。い。わ。り。あ。く。子。親。よ。い。け。り。人。の。い。ふ。



しつぱいかうしくゆめあへくもそれとびあむね
 ちりやびりちり色どりあへかよかひひくころと
 かしやあふぬくぬくもしなふぬ祿乃よやま
 ひせふとせぬとせぬおとぬとあふまにぬく
 くとああぐくは常に人のやあしりしとわ
 よせふとちりかぐゆたうくゆたよのまはれ
 りあまあくひが是ハあふん常任とわあつら
 りがあめくいゆいゆきびゆまよふうはゆく
 くれいこひくれい親ゆあまをさしていり
 りよとやよかちりいふ花をさしてい

ありては。せぬがく。びんや。やどして。なを。まじ
らぬ。と。きん。あに。あを。おと。と。く。も。わら
あて。あう。せぬ。が。い。と。ひ。く。ぞ。と。く。ひ。く。と。く。

中七三 馬橋之津

帝の勅定ふ。い。れ。預。あ。かり。あ。ま。い。く。ら。た
あ。ま。え。ご。し。ふ。る。か。く。て。い。あ。あ。ま。ま。い。く。ら。た
あ。い。野。う。し。い。ま。で。し。い。は。あ。く。と。く。い。ひ
あ。の。ご。ご。あ。ら。あ。ら。あ。く。き。あ。い。ゆ。か。あ。い。く。あ
生。道。と。わ。り。と。く。い。る。ら。い。と。く。の。た。馬。家。と。馬
改。形。り。い。合。人。か。合。人。馬。を。の。り。當。る。飼。馬。を
下。部。下。男。よ。と。う。か。細。い。羽。羽。賣。市。に。う。か。り。そ。が

と。後。田。が。鼻。皮。依。勢。が。か。の。び。ひ。作。作。の。鞍。尻。切。付。は
は。さ。ら。う。う。が。び。が。い。と。く。い。け。と。く。び。と。く。あ。い。せ。ん
鞍。と。り。ひ。あ。い。ひ。と。く。い。の。毛。袋。の。り。ま。ま。て。も。い
せ。高。生。力。よ。と。し。い。り。案。の。と。く。名。馬。を。う
る。日。来。ハ。や。せ。か。ら。う。い。あ。ま。ま。い。く。ら。た。と。く。い
い。大。教。よ。わ。あ。い。せ。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。け。と。く。い。と
あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い
あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い
あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い
あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い。あ。ら。う。い

ふうちひかれ年とあはしとらまのいふ
ざりてちちのつとむらふちかづい
たくりつとて海遊代つるまは
海波かぞめらけさげ義後の
つさげ國ぞとげとぬぐらん
がわんぞ深き旅まがふと
野ととせやとてさやとて
ゆくはぬらとてたの波な
さけとくじつとげと知
まのまへとてらたわとけ

げの馬がいとくさうとら
かんとれあらしとららん
し。重なるたはれあいが
あつりあうらとらとら
の川流れあはせとら。海
馬とらとて野畑のつと
あつりこれとてまは月
まづにかげとてまは月
あつりそとせとらとら
らとらとらとらとらとら
よりまらとらとらとらとら

さあさるの福ふつと危とあまのせとせけつぬら
りしらしみ丸のしらお作馬しやばまで世ふらふ
がーとふらふいこく福のわづらうとぞ
れ。それるもあうこくゆあふ。ちひさた
あふ。大乃の辻つじ地義ぢぎのまふらも新あらたつてい
る大ふおく位くらかふらりあ。深義しんぎ位ゐと日ひ若わか
まにわわ福をも治ちじふとてあふ。たま
づらてあ病びやうとぞうくそらに近ちか付つあつたに
もふけかーらと押おわら。固かたとこり。久ひさく
て乃のふのせんからとぬらたらざりてむとふ
又また真途まぢあまあまと夜よそれかーいこす

らり。岡おか磨ま城じやう城じやう入いびつ。い海うみ若わかせぞと。度たそれ
が命いのちれからりふ。次つぎ位ゐに。世よはうせんそ
ふあに。そせと。ほるあれ。と。まづ。あらん
事こと。思おももよう。い。は。そ。次つぎ位ゐが。ま。や。と。あ。て。は。り。と。そ
ま。い。つ。ら。ん。と。夜よ。こ。ら。う。の。ら。り。と。岡おか磨ま城じやう城じやう
じ。と。て。次つぎ位ゐに。と。う。い。ふ。次つぎ位ゐに。あ。い
と。ま。づ。と。ま。や。と。あ。て。一ひと。夜よ。と。い。ふ。ま。は。ら
い。あ。う。世よ。ま。や。と。あ。て。と。ま。や。と。あ。て。い。ふ。あ。い
あ。い。あ。て。と。ま。づ。と。ま。や。と。あ。て。い。ふ。あ。い
う。世よ。あ。い。と。ま。づ。と。ま。や。と。あ。て。い。ふ。あ。い
あ。い。あ。い。と。ま。づ。と。ま。や。と。あ。て。い。ふ。あ。い



うしつうさきく、西園薙城にむらさきさきぬら
ふらるかんざん、志やうらふもそのりちげをせ
る海、徳樂の御下、知とわすもらう、まどれ
がくまき、いさうく、想して、さぬらり、いんし、志は
まらかり、いさめらう、うらう、武志や、そのうき、さ
田んら、かん、田の、て、た、り、神成志、は、お、終、り、の
次、伝、く、海、ら、う、も、真、達、黄、泉、う、か、り、い、い、ご、あ、り、と
と、そ、う、ら、う、さ、ふ、り、や、か、さ、ら、り、あ、り、法、大、お、い、し、し
然、し、義、経、う、ん、ご、神、妙、た、り、と、この、こ、い、ま、い
く、帝、の、御、感、か、り、と、形、り、い、い、く、い、ま、ら、と、こ
色、味、た、く、へ、い、い、ま、ら、う、は、較、日、二、日、の、その、う、ら

に、う、ら、い、い、の、ご、さ、た、方、か、さ、か、び、ま、ら、う、う、こ、ら、ん
ら、う、う、ら、い、い、か、ら、ぬ、神、靈、あ、り、ご、あ、り、ま、た、り、
は、時、目、で、の、清、め、た、り、ま、ら、う、わ、く、ら、あ、り、ま、い、し、ら
い、事、あ、り、て、後、京、の、朝、臣、備、守、阿、部、の、法、師、と
わ、の、地、清、水、く、中、の、母、々、つ、つ、い、ま、る、り、あ、り、
ご、ん、ら、う、と、い、人、界、ま、生、れ、下、野、は、は、く、ご、山、に、禁、祿
ご、ト、田、や、い、ふ、ま、ら、い、ご、と、ご、ま、ま、い、の、父、の、き、れ、や、ま、え
あ、り、ま、い、し、あ、り、その、の、子、十、三、ろ、う、ら、う、ら、う、
海、の、御、神、に、百、日、う、ん、ら、う、ら、う、ら、う、ま、ま、ん、は、ら、ん、終
不、思、儀、の、沙、靈、後、と、い、ひ、う、ら、い、は、た、か、り、た、ら、と、
あ、り、十、六、ご、ら、い、あ、り、ま、い、ま、ら、い、の、あ、り、ご、ご、ご、あ、り、

わんづり。ふ。樹。お。に。清。き。し。え。百。ふ。ふ。の。系
地。主。帝。お。母。御。極。志。つ。り。た。り。し。て。清。水
と。か。て。ま。つ。り。昂。貴。に。ゆ。じ。つ。の。清。涼。散。を
そ。う。と。れ。と。も。う。ら。ら。は。ん。病。の。志。さ。お。蛙。や
地。し。わ。り。と。く。め。ら。と。あ。い。ま。の。ふ。れ
と。わ。り。あ。い。蛙。ら。ら。に。ま。ら。地。と。の。中。に。教
き。海。の。所。平。安。の。ま。し。と。し。も。ま。の。全。体。を
て。み。る。成。り。を。さ。ま。い。ま。と。て。出。候。じ。れ。た。清。明
う。し。に。あ。う。し。の。二。の。生。類。ど。う。と。あ。つ。り。ど。り。の。心
し。水。中。草。の。中。に。松。ら。な。ま。ま。の。心。を。あ。ら。わ。ら
平。安。あ。ら。せ。き。海。に。あ。ら。も。教。束。氏。と。ら。う。

あ。ま。ふ。十。八。葉。中。入。磨。し。それ。ら。し。も。又。天。竺。に
し。つ。り。清。涼。の。白。雲。和。尚。の。室。に。て。行。く。の。秘。方
と。傳。へ。我。師。小。か。り。の。ま。く。秘。教。さ。ぞ。く。と
わ。く。し。百。子。の。法。一。半。し。も。と。れ。ど。地。白。雲
和。尚。大。聖。文。珠。の。秘。法。を。ら。し。と。ま。と。清。明。の
け。つ。ご。と。も。て。傳。つ。る。か。ど。ん。壽。の。あ。ま。と。道。理。を
法。明。と。ら。ん。の。秘。傳。書。と。し。つ。さ。い。時。日。は。う。ん。か
ち。し。け。る。ま。の。以。よ。れ。時。日。と。お。は。せ。お。さ。ま
お。が。り。あ。ら。は。り。の。れ。占。れ。の。り。て。う。の。古。所。天。地
海。ん。の。大。子。世。界。又。十。六。位。七。子。の。法。を。傳。へ。成
純。乃。大。吉。日。の。日。十。日。日。宣。の。一。大。と。ぞ。し。け。し。か

法軍のさきよりつゝ。東よりさきより用むし
まじく交ぬればにりのさかかきぬ。馬小教と
ちいさくおしむるやうにこれにさきよりさき
むらりおらうらうらうらうらうらうらうら
れら。志ふふふふふふふふふふふふふふ
八万八千七百余人。法軍のさきより三倍九拾七
そんからう。難共のさきよりさきよりさき
れりさきよりさきよりさきよりさきよりさき
はくされどか。つゝさきよりさきよりさき
にさきよりさきよりさきよりさきよりさき
席侍勢三命かきさきよりさきよりさきより
おまき。熊井むさう坊。武井坊とさう。おまき

にりさきよりさきよりさきよりさきよりさき
々甲斐をたけむさきよりさきよりさきより
卒してさきよりさきよりさきよりさきより
ひらきさきよりさきよりさきよりさきより
むわくさきよりさきよりさきよりさきより
にひらきさきよりさきよりさきよりさきより
さきよりさきよりさきよりさきよりさきより
おまきさきよりさきよりさきよりさきより
つゝさきよりさきよりさきよりさきより
はくさきよりさきよりさきよりさきより

小夜嵐

三

わらん。古今の良大夫の集に一人法もりも
 さむきむらうとくたうらんやのまのうら
 られしむらぶ凍りありやるりしりしきん街
 後がけりやま

才北に 三帝法軍に師對面之事

明勅成得軍共かぶこの徳とてしりた力とも夫
 炎きやいといは腰けりまらうつといはの
 きんあぶといはといはのきんあぶ海に陸城あ
 ころとをいしあかきまんとといはけしきんあ
 鼻ありやといはまらうといはけしきんあ
 實乃一天しらうといはけしきんあ

おに率して降竜あふ系あふ院をよしてを
 らに寝そあぶん打りしりしりしりしりしり
 くわしとく田しりしりしりしりしりしり
 然り。勅定わりのきんあふとくはよ帝
 二の西元に核る事と志くせ海にきんあ
 らあらしむるべし。右法をれしきんあ
 や。け事かたりまのきんあふとくはよ帝
 ひ武志とともせ海にきんあふとくはよ帝
 くらがえんと修をれ敵と人けしきんあ
 のりやえりしりしりしりしりしりしり
 然りしりしりしりしりしりしりしり

くらよのしゝ我君の国事よあしなぐは解とれ
 きんまのぶひめくうらとせだそのくらめと
 りうきく毎らるべ何とされあぢやあめあ
 まうんとくせとられけいせい流さるげふされち
 うごころらん花ものつごもや物とてい事と
 て。夢むかりわいどしりふ二ある帝はそ
 九うつとせかれしくふあうりる毎く英
 氣にともちられて何いまのくらうくわさる
 保元平治書永義久のち世もさまうとらりや
 くらべうんにいふめありとされけいせいでいひさ
 かと信朝もたうんう。先皇とて世のさきに

わいに糸との院殿おれ後上人のまへは
 高まのり院宣れむひひと英園と。所二ある
 くらやうとらうんひおれあふらん別勅書は
 比業門ありとふりのもところて何とぞいそまご
 随竟と陳朝と系院を道よりて法定に由書
 ありとらうとせらうとこ古寺ありとそ。たを
 くらの宮高と物て。しうもそふあもせい毎
 の流跡ちもしむやあれたいと。うかこれ
 燈立作の志何れ内所々の世ふうに松
 ゆりのあつとせ見して下くれりのくら屋の
 よ。あさむと志乃ごよとや。そふららにあらぬ



下くだ板打いたくく。あこな成あこちうゆうと
考あり氏乃海もそめだりあららととる。と
いへらと所へも。あかしくけちぐらと。おーもさ
うくさ。十三板乃月かちらき家ぐ。もらみに
れらると。月乃しそじし。みし。いかわくぬ。う
ぞもあくるはよふちさせら海ふ折ゆ。一
大乃徳軍のさかひはきき。あゆの海じいれ
系内トし。所。院とす。ぐち。あてまつ。も。あこは
くく。らく。あし。ら成あまふ。今。い。三。あ。た。か
を。徳軍にし。ト。け。て。あ。さ。ひ。く。人。た。ら。し。た。い。あ。ま。よ。た。さ
か。く。孫。の。大。乃。徳。軍。う。ち。い。い。さ。ま。院。と。お。と。を。ら。り。

ゆて。ま。り。つ。り。ひ。よ。く。ま。の。ま。し。と。な。り。と。さ。び。ん。ま
案。の。う。ち。か。わ。し。と。と。い。れ。る。わ。一。希。は。圖。魔。強。賊
と。せ。あ。さ。り。い。く。い。ま。れ。し。む。け。と。り。上。な。り。と。ひ。ひ。ひ。
信。大。乃。徳。軍。奏。ひ。あ。ま。さ。て。か。ひ。の。院。の。ま。い。け。り。
ひ。ら。う。く。か。れ。り。く。つ。ぶ。き。も。あ。ら。な。か。は。ら。う。ひ
我者。さ。の。ま。ら。は。さ。も。る。な。ら。り。神。の。つ。り。と。さ。ら
あ。こ。さ。の。う。れ。と。か。ん。事。先。心。守。勢。は。ら。ら。と。と
と。ぐ。あ。こ。さ。り。あ。う。れ。い。さ。よ。ら。と。あ。く。あ。大。乃。徳。れ
は。元。く。せ。ん。ご。や。か。ま。ら。び。ひ。も。併。ら。勇。士。の。命。と。か
ら。んと。名。と。万。代。の。や。み。あ。が。ん。と。か。り。あ。我。お
の。た。う。ひ。か。ら。と。ら。わ。あ。ぐ。あ。は。と。よ。に。わ。く。あ。が。

小坂園巻一
三十四

よめるに邪心とてふべきけささるる時わい
まれど丸がひはゆるりとかもひあくるあはなと
つくるふあうびせんごとあつとあよよいつてあ
くれ横死しきなきなれさび夜にり入りの遠
いのらまひのあれく我がり又かふ出陣乃はな
三帝心魂と乃こふ天よそのまのわいとあ
こもらまらよの事と子星にやうく威と万
里の初よあうくまのしやあうれ吉例よま
也。伊勢玉致廉山の鬼祓とあらぼるは例
はらう人の回村丸利仁一方乃先んたて一信
必産隠山の鬼祓とらげらるは例よふてが

は將軍平惟持一方乃先りふあせつは丹波の必
山の酒天童子が例と源頼光一方乃先り
対。飛初乃禽類悪竜の類源三任初政矢初仕
らるる一是ハ近湯の院乃所宇に鶴とつらるる例
よまらるるあり。悪鬼変化のまぐいよ源の義綱うら
こわらまらよ。矢合矢初とハ徳島の八帝為朝被
ち教師。真那造の正高。わらうの盛平。母川。是
と市物。同宗。わらうの盛平。母川。是
ハ世のわらう。勢。矢合。矢初。是
初。わらうのわらう。わらうの盛平。母川。是
あり。源義経をんごらうてらるる。わらうの盛平。母川。是

源義経をんごらうてらるる。わらうの盛平。母川。是

いりて、おりのせま。とららく、
 二日と成りて、いさむつとして、
 徳川とぬらり。降竜寺とせむの
 こし。西にせめがらうけられ、
 ひとりの先主のま教部よりやう
 眞友獄卒切らせとて、
 らかしく、
 ぶ。十方志ゆるい獄中。山
 ありける。そのたれ鬼た斬
 りをい。つらうとる。ま
 じく。ふさうとめぐれども
 う行前へと人あうと。

けく。ふさうとめぐれども
 う行前へと人あうと。ゆら
 下もわれうらくあげかく
 るか。あふしかれた。甲の
 とて。身さうわがふてい
 入。御進へ。あれた。ま
 なく。たてふ。お。か。う
 なく。たてふ。お。か。う
 なく。たてふ。お。か。う
 なく。たてふ。お。か。う

罪人いふやうにいふにわづらひなきにや
カレ録^{おぼしめし}とていふにわづらひなきにや
らびの中はとも後をよりの事なり
つてこそ。罪人ぞいふにわづらひなきにや
かりにやいふにわづらひなきにや
てこそなりと後悔とていふにわづらひなきにや
ままたえへいふにわづらひなきにや
ゆらにいふにわづらひなきにや
らうに同道めくよ内せられる事なり
ゆる事なりといふにわづらひなきにや
えり家くいふにわづらひなきにや

枕大いふにわづらひなきにや
こころなり。昔大唐小函谷の関とてわづらひなきにや
志し人なり。秋ハ公みこり。秦ハ眼玉とてわづらひなきにや
家多の事なりとわづらひなきにや
いび人自梳の事なりとわづらひなきにや
くれる衣なり。天下小の事なりとわづらひなきにや
うれし事なりとわづらひなきにや
あつとわづらひなきにや
八戸いふにわづらひなきにや
祿とていふにわづらひなきにや
あつとわづらひなきにや

安逆云々今夜法王の文鑑境比中に出
八國海ありと云ふあわぬ斗略少くもわら
ぬと云ふして波のなほ鬼のたぐせりなり

才元又 軍勢賦

波のこ乃田村お軍利に云々白濁のきりけりお
呪云書いふと云々あげのさかふと八十三方八
千餘騎と云々卒して。高麗海の北に西
ようし乃と云々業の松原と云々横濱守頼光
々仙洲のよろろいと云々毘沙門小よと云々比
しらへしと云々我々の電深のり拘天の迷日
と貞安徳が打ちふ二尺七寸八太刀と云々不
動粟毛

と云々馬の。鞍と云々ゆるりとのり志馬及鞍
統後と云々資だ馬の村實四。丹はる保昌貞光
公時一人と云々法法と云々仲政と初とて
六十七万六千余騎と云々又八面と云々い
と云々源三位と云々嫡子と云々馬改ま
兼徳と云々頼光と云々肥と云々た
子金と云々つ貝と云々徳と云々味と云々
南只と云々漢門と云々目下と云々小
我師と云々と云々山と云々と云々
と云々いと云々本と云々重と云々
と云々我と云々盛と云々徳と云々田と云々

河次而得重源八幡廣總作後次佐。曰忠佐源田
源三熊井去而。行思乃為妻。常陸防長飛騨
交。おいあつてふんてゆら。去肥次而實平。その子
遠平。昌山の左司重忠。和向教盛。その子約信。約
義秀。為我十而祐成。同入而時宗。然其の次而
直実。その子直家。平山乃妻。志不承。其子作本
三郎盛總。同入而高總。浪谷の左司重由。藤治
六郎宗總。河越の三郎宗和。と先うして。寛
文の強志。八十に万八子余孫。明業寺とあして。
多ん由。越乃うしろ。を介。佐のあへまのびへ。そと
が。か。と。あ。ん。が。こ。と。く。の。奥。あ。わ。平。家。八。一。門。じ。ひ。の。さ。

大お流軍勢。教万機。の去。私より。り。の。つ。て。海。へ。か。し
て。責。考。ゆ。様。乃。り。り。負。吹。ら。も。こ。い。波。乃。け。く。え
と。う。ら。そ。く。人。さ。あ。天。れ。り。ぐ。く。巨。海。と。う。ぐ。ら。せ。り。ら
ら。く。く。人。こ。ふ。ハ。依。あ。る。忠。盛。大。政。を。臣。平。八。信。盛。太
三。郎。宗。盛。池。の。天。納。玄。教。盛。門。限。の。中。納。玄。教。盛。
冬。旅。は。の。り。り。と。産。存。る。忠。度。小。松。大。佐。重。盛。
曰。大。佐。宗。盛。小。松。信。元。り。り。と。り。り。資。盛。清。純。重。
信。通。盛。信。正。教。盛。忠。正。然。登。也。教。作。又。曰。大。お。し
ハ。新。中。末。月。盛。俊。上。信。の。助。忠。信。恩。七。五。清。う。げ。こ。よ。
飛。彈。乃。利。友。う。げ。の。ん。か。ら。ら。れ。利。友。孝。個。信。友。平。向
た。妻。つ。く。へ。か。ら。ら。波。の。民。於。大。物。成。良。并。尾。大。高。兼



康雅俊の次子仲を義比と云ふ。直義の孫也。浦
山康徳方と初とてと下との勢八十三万七千
余。義方被よつてうんで。多んまはまらうく
とく。いふかやがれ。境より小川。飛龍門へ。八幡宮
義家。嫡子六条の判官。為義。二男。弟。乃。先生。義
賢。た。唐。の。尉。於。賢。抄。於。助。於。仲。六。而。為。家。七。而。為
如。徳。而。乃。八。而。為。明。九。而。為。仲。俊。有。り。義。の。い
あ。と。い。ふ。侍。大。拍。子。の。出。羽。と。ん。か。ん。光。徳。多。田。義。人
の。徳。山。乃。冠。志。義。清。か。い。と。い。ふ。山。田。和。泉。八。の。依
ち。れ。と。高。う。く。ゆ。と。い。ふ。と。の。勢。入。十。八。万。六。千。余。義
多。人。田。城。乃。に。ぬ。い。よ。あ。つ。り。河。津。河。藍。と。い。ふ。所。に

と。れ。り。は。い。よ。と。い。ふ。て。人。数。と。も。と。ら。る。家。証。書。に
軍。初。期。と。い。ふ。こと。と。い。う。わ。げ。合。身。と。い。ふ。冠。者
希。義。越。た。な。も。義。門。安。野。禰。作。全。成。と。い。ふ。の。公。の
義。因。た。人。の。物。家。と。い。ふ。人。良。実。初。あ。い。と。い。ふ。人。と。い。ふ。
小。栗。丸。四。而。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。の。こ。い。は。ら。れ。小。川。而。判。官。比。企
大。河。新。田。の。口。良。也。と。い。ふ。け。の。物。也。と。い。ふ。去。任。序。墨。法。也。と。い
義。主。の。子。と。い。ふ。田。と。い。ふ。市。と。い。ふ。田。海。と。い。ふ。八。の。い。は。れ。
河。村。乃。我。の。大。而。坊。と。い。ふ。入。而。法。院。山。名。は。友。義。寺
と。い。ふ。所。也。行。墨。乃。考。傳。つ。孫。と。い。ふ。安。田。と。い。ふ。と。い。ふ。
大。内。の。王。良。と。い。ふ。と。い。ふ。田。代。の。冠。者。の。い。は。れ。川。被。と
良。重。頼。同。重。彦。梶。原。平。義。家。時。子。孫。と。い。ふ。義。家。の。孫。也。

同卒太系女。同新嘉之浦。作教の子良年。建い
のまこの令卒六乃。しは。思遠。あふさ。ゆ。す。
お。合。ま。勢。九。十。三。万。七。千。余。勢。あ。ま。り。の。剛。志。が
く。川。あ。ま。の。橋。う。ら。わ。り。え。及。悔。倫。王。大。の
の。同。よ。じ。く。い。ぬ。ま。ふ。揚。子。の。同。へ。く。ま。る。
た。ら。氏。よ。く。あ。り。嬌。子。流。あ。れ。冠。ま。う。す。も。合。才
う。し。り。も。養。家。ま。は。る。み。ひ。ら。れ。決。ま。惠。光。合。并
は。は。兼。平。ぶ。そ。の。ま。ら。ち。く。も。八。多。佐。法。恢。大。に
さ。う。う。ら。ろ。も。こ。こ。じ。り。ら。を。月。あ。か。う。ん。如。志
思。ま。や。ざ。れ。如。も。一。所。か。も。保。山。田。さ。る。案。と。も。ト
の。じ。ひ。の。この。水。公。勢。二。十。八。万。八。千。余。勢。と。も。こ。こ。の

園とくが。ご。わ。れ。大。海。と。せ。あ。ま。は。ふ。い。と。ご。こ。の。案
か。の。残。乃。大。海。の。剛。志。ま。や。く。川。あ。ま。の。橋。と
あ。村。い。と。れ。と。さ。け。い。ち。ろ。の。女。死。し。て。い。ど。ふ
か。い。し。く。又。官。ま。い。ふ。お。わ。り。心。夜。ま。さ。し。ま。ひ。う
乃。女。よ。じ。く。い。ぬ。ま。ふ。や。む。あ。く。仏。道。修。り。の。傳。は
よ。け。善。宿。う。ん。と。と。ま。さ。く。た。宿。と。も。さ。ん
飢。あ。れ。二。飯。と。こ。ひ。た。れ。た。あ。ま。り。と。して。空
く。傳。と。く。い。ぬ。ま。ふ。の。ソ。ん。が。い。ち。く。ま。さ。し。ま。ひ。う
ア。あ。れ。ハ。織。界。園。獄。の。屋。よ。か。と。く。万。こ。初。と。あ
う。し。う。く。し。ら。か。く。獄。卒。よ。あ。り。せ。は。ま。あ。い。い。う
女。取。ア。い。ち。わ。せ。あ。く。と。ご。こ。の。時。の。次。才。し。ら。い。い

小夜嵐巻中
三十一

何れよその時まはるにやむく善きとあら
戸と閉一人もあかそりてく火とえ入る人た
もくもあかそりてく火とえ入る人た
小々何れよその時まはるにやむく善きとあら
おへいまのちいとそじりてくかもし才二かた
我才一人あかそりてく火とえ入る人た
三よまあまのちいとそじりてくかもし才二かた
うらふんとかもしい思答うのやうにあらむ
あかそりてく火とえ入る人た
うくいふ罪科よけり縁はうとてやむけり
尸とたれとも邪見才一の官主なればまて入る

とて圍獄よかたの官主とてけりいひ女いこ
いとゆやまけり官主の籠とあげかきり
よぬをえりてけり女乃あかそりてく
ふあひけり来よんてい何れ尸主の籠と
とまいせりてあかそりてく火とえ入る人た
才一の官主なればまて入る人た
いりてく火とえ入る人た
ものぞとあかそりてく火とえ入る人た
かまははまといりてく火とえ入る人た
友まもれりてあかそりてく火とえ入る人た
く権主か女よあかそりてく火とえ入る人た

笑しむはにこそしれけるかなよ比獄のほやあらし
けびいかに痛王あらうこあらうかの女と人にし
まの女獄卒はひよまらわらなまへく人の心を
あはすとすく心にあまひ入席より出てきり
わらうまらまらけも今日あまのうま姿に
わらうまらまらまらまらまらまら
又もまらまらまらまらまらまらまら
おは海かなんぞんけしてまらまらまらまら
かいららららららららららららら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら

げすり鬼ぞいあらうまらまらまらまら
のまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら

三十一

三十一

俊と頼^ひしとと。意^い思^しらるとまひかたはら。
 くの^くの^のい^いん^んが^がり^り分^{ぶん}満^{まん}その^{その}い^いと^とま^まい^いの^の
 玉^{たま}味^{あじ}り^りま^まひ^ひを^をい^いし^しら^らく^くま^また^たし^し
 よ^よく^くい^いと^とま^まい^いん^んの^のい^いと^とま^まい^い
 幸^{さい}見^{けん}を^をい^いし^し

小夜院巻之三
 五
 八